

東京農業大学北海道校友会令和5年総会挨拶

令和5年1月28日

皆さん今晚は。

大変お久しぶりにお会いします、又、今回初めてお会いする方もおいでなので、わたくし、支部長を仰せつかっております、昭和49年造園学科卒業の早坂です、よろしく願いいたします。

昨年11月に役員会を開いて、ここ二年コロナで開催できなかつたことを踏まえ、また運よく規制解除の話もありましたので、開催を決定いたしました。

その後北海道の感染者が増える中、開催していいか迷った時期もありましたが、今年に入ってから感染者も日増しに少なくなり、開催出来ましたことに安どした次第です。

例年近い参加をいただき開催できますこと、心より感謝いたします。

また校友会本部から精谷常任理事、生物産業学部から丹羽教授さらに大塚事務部長にご出席いただき心より感謝申し上げます。

さて、三年前の札幌雪祭りに、中国武漢の観光客が来札してさらに全道を回り、コロナが北海道から始まりもう三年がたちます、2類から5類に今年の5月から対策も変化しますが、経済状況にも配慮しながら、アフターコロナにシフトしつつあります、自然界では常に天敵が存在しますが、人間の天敵は、病原菌、細菌なのかと思うところです、いかに身を守っていくか、対応する化学の力もとよりですが、個人適応能力を高めていくしかないかと思うところです。

昨年を振り返りますと、2月に始まりました、ロシアのウクライナ進行がもう1年がたとうとしており、解決のめどもたたず、また明るい兆しが見えた冬季オリンピックも汚職問題でどうなることやら、オリンピックに合わせて開業予定の新幹線札幌延伸も不確定と、あまりいい話はありませんが、

今年はウサギ年、飛躍の年にしたいものです。

今回参加者のうち三分の一がおオホーツク卒業生、さらに10名になる女性の参加があり、北海道校友会の新たな転換と考える時期が来たように思います。

大学においても、理事会、評議員会の在り方、校友会においても一般社団法人化等、日大の事件から文部省より指導を受けて改革に迫られております。

大学本体も国際センターがこの春から稼働します、校友会事務局もその建物に移転することになっており、世田谷キャンパスも様変わりしています、さらに、東京情報大学との統合が話題となっており、今や、国立大学の合併など、大学も転換期を迎えております。

どうあれ、我々農大卒業生は変わらず、結束を強めながら、絆を深めたいものです。

校友会組織は5つのブロックに分かれており、北海道東北が一つのブロックですが、今年は、北海道が登板でブロック会議が札幌で開催されますし、ここ2年間コロナで十分な運営が出来ませんでした、今年度は積極的に活動したいと考えておりますので皆さんの協力をお願いいたします、

皆さんにとって飛躍の一年になりますことを願って、私の挨拶といたします。ありがとうございました。